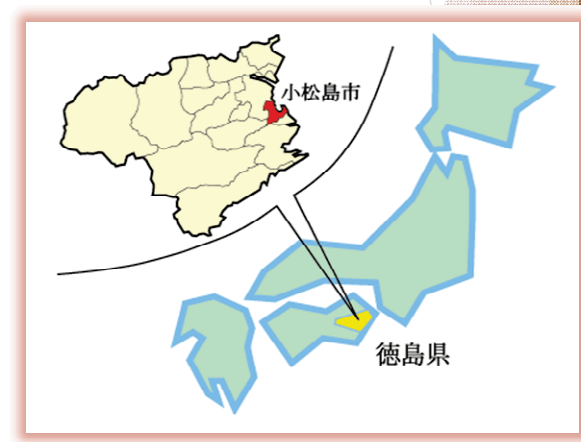


生きものとともに育む 「小松島市の有機農業」

徳島県小松島市



※無断転載を禁じます

小松島市 生物多様性農業 推進協議会とは？

小松島市生物多様性農業推進協議会は、平成22年3月、環境や生きものにやさしい農業を推進するため、農業者、民間企業、行政機関等で設立された協議会です。

本協議会では、生物多様性保全に配慮した循環型農業の推進と、地域農業を担う人材の育成を図るための取り組みを行っています。



特に、地域内の有機資源を活用した堆肥・肥料による多収穫で高品質な栽培技術の普及や販売促進活動を通して、安全・安心な農産物の供給とブランド化を目指しています。これらの取り組みにより、農業後継者の育成と農業者の所得向上を図ります。

● 取り組みの柱



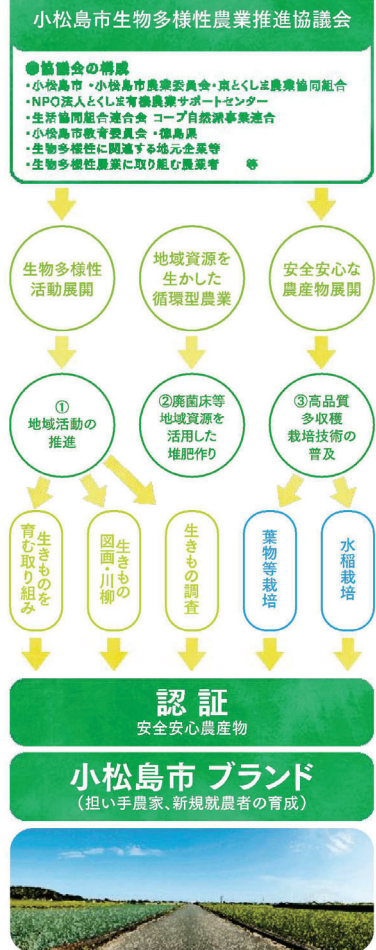
小松島市生物多様性農業推進協議会の発足

| 項目 | 内容 |
|------|--|
| 設立 | 平成22年3月1日設立 |
| 構成団体 | 生物多様性農業に取り組む農業者、東とくしま農業協同組合、生物多様性に関連する地元企業、小松島市認定農業者連絡協議会、NPO法人とくしま有機農業サポートセンター、NPO法人里山の風景をつくる会、コープ自然派事業連合徳島県、小松島市、小松島市農業委員会、小松島市教育委員会 |
| 会長 | 小松島市長 中山俊雄 |
| 取組方針 | 地域内の有機物資源を活用した堆肥・肥料などによる、多収穫、高品質、高食味値な栽培技術の普及や販売促進活動を通して、安心・安全な農産物の供給とブランド化を推進し、これらの取組により、農業後継者の育成と農業者の所得向上を図る。 |



総会の様子

**協議会
事業展開
フロー図**
当協議会の概要をご理解いただくために、私たちの事業展開をフロー図にしました。



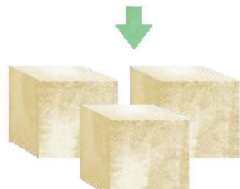
● 生物多様性保全に配慮した持続可能な循環型農業の推進

地域資源を生かした循環型農業

しいたけ栽培に使う菌床ブロックを堆肥化して、野菜の栽培に利用しています。みみずを使って、菌床ブロックで土壌改良資材をつくり、お米の育苗などに利用しています。



● 菌床しいたけの生産は日本有数。

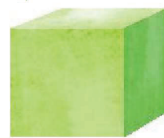


廃菌床

● しいたけを取り終え
これまでは廃棄物。



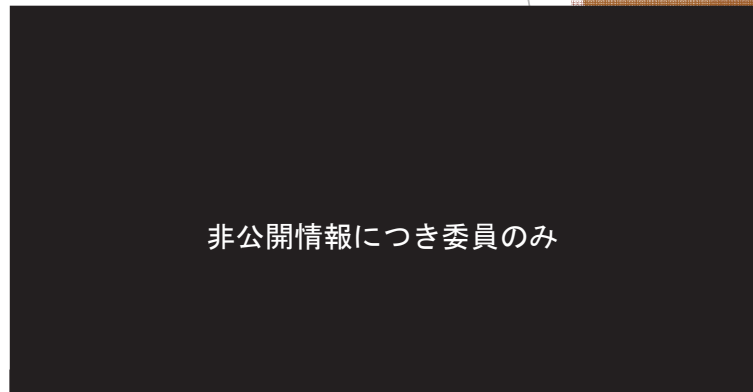
● 菌床ブロック



みみず覆土



小松島市の地域の循環型農業の中で生産された「いのち育むたんぼ米」は、ふるさと納税返礼品として出品されています！



(栽培期間中)
化学合成農薬・化学肥料不使用

コシヒカリ

定期便
全3回

いのち育む
たんぼ米

15kg
(5kg×3回)

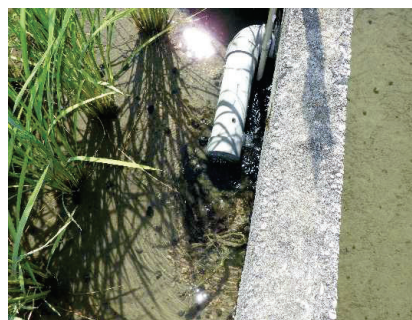
- 地元企業が生産するシイタケ廃菌床による堆肥づくりとその利活用
- 鶏糞堆肥等の利用 ※県産地鶏の鶏糞堆肥を利用

- 環境保全型農業直接支払交付金事業の取組
令和6年度申請者数：25名（水稻・その他野菜の農業者等の重複を含む）

↓(株)豊徳（市内企業）による“みみず覆土”



↑オランダ農協（県内企業）による“なっとく有機”



令和6年度
市内ほ場取組面積実績
約2.2ha
(有機農業・市外農業者
団体の取組を含む)

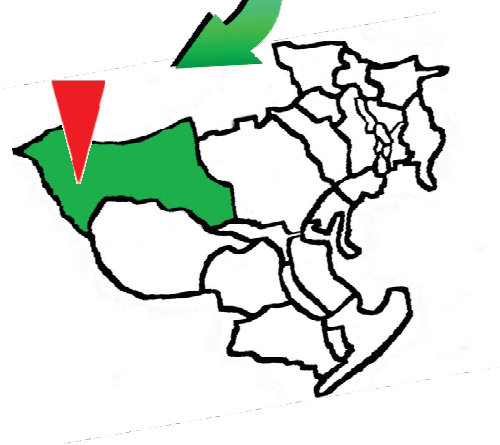
←現地調査の写真
(水稻栽培において、生活排水が混合する場合もあるため、活性炭の設置を確認する)

●担い手農家、新規就農者の育成支援（地域農業を担う人材の育成）

①NPO法人とくしま有機農業サポートセンターとの連携による農業後継者の育成支援 （有機農業者 累計154名（令和6年度末時点）を輩出）



2009年（平成21年）10月設立。
2010年7月に小松島市櫛渕町に有機農業および農業技術者育成を行う研修施設「小松島有機農業サポートセンター」完成。水稲の栽培技術研修の実施や、有機農業技術の習得と実践を通じた有機農業者の育成支援を行っている。



②栽培技術講習会の実施 (現地ほ場研修・有機栽培技術向上研修会)



B L O F (Bio Logical Farming・生態系調和型農業) 理論

小祝政明氏（一般社団法人 日本有機農業普及協会理事長）の提唱する理論。堆肥を使った土づくりを基本とし、中熟堆肥を利用した太陽熱養生処理（秋処理）による土壌の団粒化や堆肥由来の放線菌・バチルス菌による病害虫の抑制、土壌分析・施肥設計によるミネラル肥料の適正施肥など経験や勘に頼るだけでなく客観的なデータによる有機農業の実践手法。



東とくしま農業協同組合 西田 聖 氏

小松島市の農業においては、西田氏が中心となり、小祝政明氏が提唱する「BLOF理論」を現地で実践し普及している。

オーガニック・エコフェスタへの協賛

- ▶ 有機農業者の交流を通じた新たな有機農業技術の習得と知識の向上及び生物多様性農業への理解の増進と消費拡大を図るため、消費者や流通業者等を交えて、JA東とくしまが中心となりイベントを開催
- ▶ イベント内で「身体に美味しい農産物コンテスト」を実施。高品質・高栄養価の野菜の生産者を表彰
- ▶ 実行委員会は複数の団体で構成されており、本市協議会も協賛メンバーとして参加
- ▶ 平成23年度より開催。コロナ禍中はオンラインによるイベントの公開も実施
- ▶ 令和4年度（2023）では、中国四国地域で初の「オーガニックビレッジ」宣言を実施



栄養価コンテスト受賞式



消費者イベント風景

オーガニックビレッジ宣言



小松島市



小松島市では、平成22年に生物多様性農業推進協議会を設立し、関係機関や市内各地域の農業者と連携しつつ、水稲を中心とした環境配慮型農業や有機農業を推進してきました。これもひとえに、「安全・安心しておいしいお米を消費者へ届けたい」という生産者の強い想いがあったからこそであり、同時に、これまで築き上げてきた土台を後世に引き継いでいくことが、使命であると感じています。

国の定めた「みどりの食料システム戦略」の目標達成に向けては、一朝一夕で成し遂げることは困難であり、関係者のみならず市民全体で、機運醸成に努めていくとともに、自然豊かで特色ある本市農業の強みを活かし、有機農産物の生産人口を拡大させ、多くの消費者が容易に有機農業によって生産された農産物入手することが可能となる流れを構築してまいります。

その決意をいたしまして、小松島市は「オーガニックビレッジ」となりますことを、ここに宣言いたします。

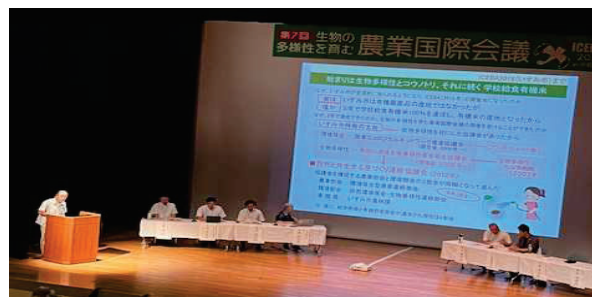
令和5年2月19日

小松島市長 中山俊雄

第7回生物の多様性を育む農業国際会議 (ICEBA7) の開催

○開催概要

- ・ 本年7月に、コープ自然派・東とくしま農業協同組合などととも、「第7回生物の多様性を育む農業国際会議」通称ICEBA7を開催
- ・ 国内外より有識者や他自治体の関係者など約300名が参加
- ・ 有識者による基調講演やシンポジウムを開催
- ・ 各テーマごとによる4つの分科会の開催
- ・ 地元高校生による生きもの調査・発表
- ・ ICEBA7.5引継ぎ式・小松島市宣言



子どもたちを対象とした生物多様性活動

田んぼの生きものの図画・川柳コンクール

小松島市内の小学生を対象に、「田んぼに棲む生きものとのふれあい」をテーマにした、図画・川柳作品を募集しています。

子どもたちに生物多様性農業について考えてもらうきっかけとして、毎年開催しています。

受賞者については市長による表彰式を行っています。



令和6年度図画最優秀作品

非公開情報につき委員のみ

非公開情報につき委員のみ

令和6年度川柳最優秀作品

学校給食への有機農産物の導入について

▶ 市内小中学校の学校給食にお米・小松菜を提供

市内の小中学校の学校給食に、JA東とくしまのご協力のもと、栽培期間中化学合成農薬不使用のお米を提供しました。

また、化学合成農薬・化学肥料を栽培期間中不使用の小松菜を提供しました。

【令和4年度のお米の提供】

- ・提供期間：令和4年9月～令和5年3月
- ・提供量：約13,350kg

【令和4年度の小松菜の提供】

- ・提供期間：令和4年11月～令和5年3月
- ・販売量：小学校456.3kg 中学校455.4kg

【令和5年度のお米の提供】

- ・提供期間：令和5年10月～令和6年1月
- ・提供量：約8,990kg

【令和5年度の小松菜の提供】

- ・提供期間：令和5年11月～令和6年3月
- ・販売量：小学校426.3kg 中学校500.6kg

【令和6年度のお米の提供】

- ・提供期間：令和6年10月～令和6年11月
- ・提供量：約4,570kg

【令和6年度の小松菜の提供】

- ・提供期間：令和6年11月～令和7年3月
- ・販売量：小学校449.7kg 中学校218.1kg

非公開情報につき委員のみ